

真珠の会だより

<2012. 6. 22>

命と愛のコンサート 大成功！ (会計報告を同封します。)

のべ263名の来場者が、感動を共有！ (岩橋さんの感想とチェさんからのメールを載せます)

崔善愛さん、三宅進さん、素晴らしい演奏をありがとうございました。

音楽の技術的なことはよくわからない私ですが、演奏が始まったとたん「えっ」と驚き、どんどん聴いているうちに「うわあ！」と引き込まれていきました。

演奏の前後のお話で、崔さんがショパンに惹かれ、ショパンを弾く理由がわかりました。そして、崔さんの著書『ショパン ～花束の中に隠された大砲～』を読んで、あの演奏の力強さ、迫力の源になっているだろういくつかのことにも関心を持つことができました。

中学・高校での音楽鑑賞の時間、「ショパン＝ピアノの詩人」としてその名を知識としてだけ覚えしました。そして、「あ、ショパンの曲だ」というのも2～3曲テストのために覚えしました。(ただそれだけ…)

崔さんは、「ショパンは革命のピアニストである」と書いています。彼の短い人生は、故郷ポーランドに想いを馳せる人生でした。ポーランドは、常に周辺の大国の抑圧を受けていた時代です。ショパンは20歳で故郷を離れ、39歳という若さで亡くなるまで、ついに故郷の土を踏むことは叶いませんでした。死後、彼の遺言により「心臓」だけが故郷に還りました。パリでの葬儀の時には、有名な「葬送行進曲」が演奏されたそうです。

今回のコンサートは、ショパンと崔さんの似たような境遇を理解しながら聴くことができたので、とても心に残りました。

追伸 ショパンの心臓を守ったドイツ兵がいたという。ショパンを愛する一人の兵士の勇敢な行動に「音楽に国境はない！」ということを感じた。

命と愛のコンサートにふさわしいエピソードとして特に印象に残った。(岩橋幹也)

チェさんから真美さんへメールが！ (翌日のメールの一部をご紹介します。)

めぐみあふれる豊かなひとときをありがとうございました。

コンサートでは、お客さんの熱意を舞台でひしひしと感じつつ演奏しました。

ほんの一日の滞在でしたのに、印象ふかく、愛情あふれる人びとに出会う機会を与えられたこと、今回のコンサートの企画から集客まで、あんなにも多くの人によびかけてくださり、どんなにか大変なことであつたと、感謝するばかりです。

会津若松が、こんなにも熱い街とは・・・その情熱が私の演奏にものりうつった・・・ように勝手に思っています

これからもずっとつながってゆけたらと心より願っております。

本当にありがとうございました。

チェソンエ (崔善愛)